

第 159 回 中材業務及び感染対策研究会報告

新型コロナウイルス感染症が 5 類に分類移行され、早くも一年が経過しました。パンデミックの最中に比べ対応に苦慮する機会が少なくなりましたが、医療機関では、まだ個人防護具の着用や患者隔離、面会制限など数多くの対策が継続されています。

159 回の研究会では AORN（周術期看護師協会）の上席プラクティスペシャリストの Amber Wood さんを招いて「AORN の推奨する手術室における感染予防制御対策-既存と新規」をテーマに ZOOM でつなぎ LIVE 講演でした。

病院ではポストコロナで標準予防策や経路別予防策について振り返っている時期であり、講演して頂きながら振り返る機会となりました。

手術室勤務において手術用手指消毒の目的や術前患者の皮膚消毒や体毛管理、手術におけるリスク軽減について、参加者が日常業務と重ねながら聞くことができました。

実践報告では、りんくう総合医療センターの感染管理認定看護師の大野博美さんからリンクナースによる活動として、相互ラウンドを実践してみた結果の報告でした。

リンクナース自身の感染対策の視点が育ち、注意が必要なタイミングなどの注目点を考える機会となり、更に他部署の状況に生き生きとした看護師の実際の様子も伝えられました。

今回から研究会の役員になっていただきました、2 施設の方が勤務されている病院の中材紹介をして頂きました、規模も設備も違う施設での活躍ぶりと今後の目指す内容も教えてくださり、参加者の頷きがとても多かった内容でした。

大阪府済生会中津病院の平松治さんからは除染から滅菌、保管までがワンウェイとなり、WD や各種滅菌機の取り扱い方など、がシステム化されており、お手本となる内容でした。また、組織づくりも施設管理者と共に構築され活動的な内容で、中材が目指す形も示されていました。

大阪大学医学部付属病院材料部の斎藤篤さんからは、多い手術件数に対応している業務等のシステム化、作業効率が考えられたスッキリとした構造の紹介から始まりました。ISO13485 の医療機器品質マネジメントシステムの取得までの道のりも興味深い内容でした。現場での仕事のし易さとシステムの改善と戦略、現場で活かせる内容でした。

特別講演では大阪大学医学部付属病院の特任教授、高階雅紀先生による滅菌供給船門の業務品質改善への試みとして「滅菌を保証する」「業務の品質を評価する」「実態調査報告」「今後の展望」について、現場目線よりも少し上の視点から教えて頂きました。滅菌供給部門で取り組んでいる日常業務の意味付け、目的目標を再確認できました。

第 159 回の研究会は、ご参加の皆様と企業の皆様のご協力により開催することができました。午前中は、海外との ZOOM によるアメリカ中材業務に触れた内容、以降は日本の実際に実践している病院の内容としました。貴重なお話を頂いた先生方に感謝申し上げます。これからも中材業務の内容、日常の医療や福祉現場で実践する感染対策について等も沢山の情報をお伝えできればと考えております。これからも中材業務及び感染対策研究会をどうぞよろしくお願いいたします。



中材業務及び感染対策研究会
萱島 すが